昭和58年度　福島県教育センター所員研究課題一覧

本教育センターでは，研究事業の一環として各所員が個人研究を行うことになっている。この研究は，個人の専門性を高めるとともに，その成果を研修講座に反映させ，講座内容のいっそうの充実を図るために，各所員が研究課題を設定して行うものである。今年度における各所員の研究課題は，下記のとおりである。

所属		氏名	研究課題
経営研究部		須永英次	学校経営改善に関する基礎的研究 ― 学校教育目標と学校経営 ―
	経営研究係	菅野家作	学校教育目標の具体化へのアプローチ
		佐藤嘉之	学校経営における組織化に関する研究
	教科外教育係	藤本忠平	学校の生徒指導体制と教師のあり方
		松本喜男	発達課題に即した生徒指導の一貫性
		小林正守	特別活動の評価に関する研究
		渡部悦夫	「道徳の時間」の効果的な運営
		山田明	授業におけるOHPの活用
		植田守	授業におけるOHPの活用
	教育資料係	赤沼良清	教育資料件名目録にみられる社会科教育の動向
		松浦正直	進路指導の充実と教師のあり方
教科教育部		加藤茂雄	教科指導における授業分析の視点について
	教科教育係	大河原博美	実際使用につながる英語指導に関する研究
		上川洋行	高校数学科におけるパソコンの活用
		杉原陸夫	社会科における地域素材の教材化 ― 中学校「公民的分野」高校「現代社会」「地理」―
		安部哲夫	音楽の美しさ，楽しさを味わわせる音楽学習のあり方
		田中四郎	身近な材料でつくる工作
		渡部裕之	小学校における語彙指導の理論と実際
		深谷秀三	体育，保健体育における運動の技能内容の一貫性に関する研究
		三浦光孝	中学校における関数の指導について ― 小学校との関連を中心にして ―
	(教科研究班)	石田威	保健学習指導における小・中・高校の一貫性に関する研究
		半澤正一	語彙指導の理論と方法
		菅原文也	社会科における地域素材の教材化 ― 人物と文化財を中心に ―
		江尻茂男	英語科における「観点別学習状況」評価のあり方について
科学技術教育部		大越勝忠	高校理科「生物分野」におけるドライラボ学習と展開
	理科教育係	宮内三良	植物教材の準備と利用
		入道正	学校付近の地形の教材化 ― 身近にある地形のようすを調べる ―
		平山昇	マイコンによる滴定曲線のシュミレーションについて
		亘理尚寛	連続した発想能力を養うための物理教材の開発
		吉田隆	個の生徒の問題解決能力を育てる理科指導
		大和田紀男	充実した理科授業を展開するための工夫
	技術・家庭教育係	笹川征喜	技術家庭科における評価のあり方
		吉田和子	高等学校「家庭一般」の実験，実習をとり入れた指導と評価
	情報処理教育係	吉田陽一	「経営数学」の学習指導法
		中野敏光	ディジタル計算機と見やすい出力
		黒須聡	TSS端末を使用した生徒実習資料の作成
		鹿俣和子	紙テープの花文字コードテーブル作成とその利用
教育相談部		折笠仙衛	学級担任の相談的な教師像のあり方　その2
	教育相談係	坂本善一	学級担任の相談的な教師像のあり方
		鴫原弥	教育相談におけるBio feed backの利用 ― Bio feed backと弛緩訓練について ―
		野村忠之	登校拒否児への家族療法的アプローチ
		海野和夫	教育に関する人間学的考察 ― 主として学校と教師について ―
		安倍治男	登校拒否児の診断と指導 その1 ― DATと親子関係診断テストの利用から ―
		佐久間益郎	教育相談における箱庭療法の利用(2) ― 相談事例を通して ―
		高石寛治	教育相談におけるバウム(樹木画)テストの利用について ― 登校拒否児を中心として ―